令和３年のツマジロクサヨトウの発生状況	
担　当	資源循環研究室　発生予察グループ ○東浦　祥光・吉原　茂昭・杉田　麻衣子
研究課題名 研究年度	侵入警戒病害虫調査 令和３年

背　景

ツマジロクサヨトウは令和元年７月に日本へ初めて侵入した新規害虫である。熱帯原産であるため本州では越冬は不可能であり、毎年南方から飛来すると想定されているものの、本県における本種の発生状況が不明である。

目　的

山口県におけるツマジロクサヨトウの発生状況を把握するため、フェロモントラップを用いた調査を継続的に行い、防除対策の基礎資料とする。

成　果

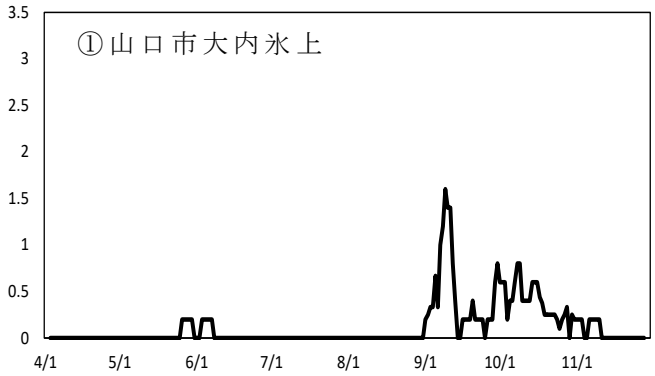
１　令和３年４月より県内５か所（山口市大内氷上、防府市牟礼、萩市大井、下関市清末、岩国市玖珂）においてフェロモントラップ調査を実施したところ、萩市を除く４か所で５月末～11月にかけて捕獲された。捕獲量は調査地点により差がある（図①～⑤）。

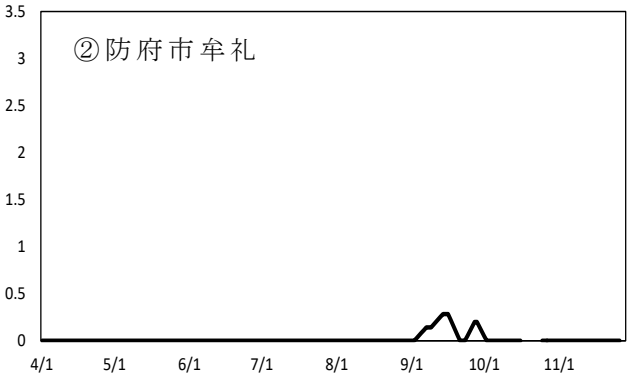
２　令和３年の初捕獲は５月28日（山口市）であり、前年の初捕獲（５月10日）に比べ半月以上遅かった。同時期に下関市でも捕獲されたことから、県中西部へ初飛来があったと考えられる。

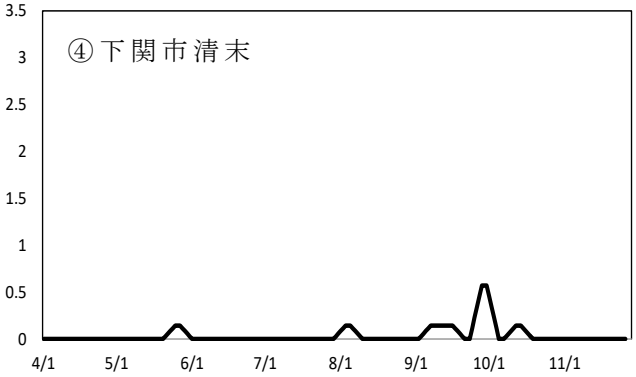
３　６～８月はほとんど捕獲がなく、８月上旬に下関市において捕獲されたのみである。また、９～11月には前年と同じく各地で連続して多数捕獲されており（図①～⑤）、本種の発生の中心は秋期であると考えられる。

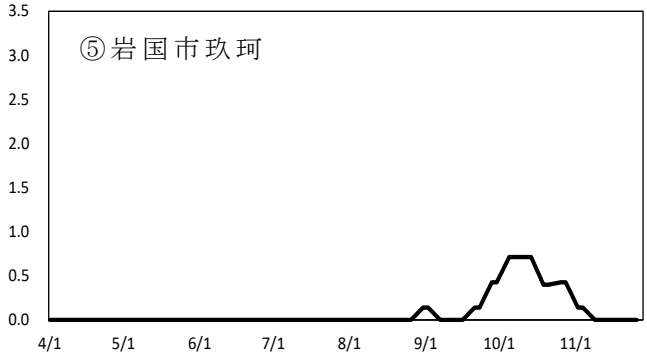
４　総捕獲数は前年の202頭に対し、令和３年は63頭と年による違いが認められる。

図表、グラフ等









図①～⑤　ツマジロクサヨトウフェロモントラップ誘殺数(移動平均、単位：頭)